

キャリア教育新聞

No.13

2026年2月
発行

共創共学
プラットフォーム
(塩尻市教育委員会委託事業)

未来を切り拓く探究心が集結 〜第一回塩尻市みらい探究アワード発表会〜

令和八年一月三十一日(土)、塩尻市教育委員会主催による「第一回塩尻市みらい探究アワード発表会」が開催された。

発表会には、中学校・高等学校・一般部門の代表計八組が登場。各発表者は、スライド発表形式で、八分間のプレゼンテーションと六分間の質疑応答に臨んだ。テーマは「自己の将来やこれからの地域や社会をよりよくするために、私たちができることや考えたこと、または実践した(・している)こと」。

発表の内容は、地域課題の解決から持続可能な社会づくりまで多岐にわたり、来場者からは「立場の違う様々な発表が聞けて良かった」「地域づくりにも繋がる」といった声が聞かれた。審査員からは「社会課題を自分たちの身近なところに落とし込み、自分たちでできることを試行錯誤をしているところが素晴らしい」などの講評があった。

発表の他にも塩尻市教育委員会講演や東京都市大学の五十嵐美樹准教授による特別講演が行われた。教育委員会からは、探究学習等の必要性が説明され、保護者や企業、地域の方々に理解と参画を求めた。五十嵐准教授からは、「先人たちが探究・研究してきたことが今の社会をよりよくしている。皆さんも探究心を大切にしてほしい。」とメッセージが送られた。



▲ 探究してきたことを発表する高校生



中学校部門
発表者の声

同年代だけでなく多くの観客の前で発表するのは緊張したが、自分になかった観点を得たり、疑問に思ったことがないテーマについても考えたりする機会になった。



高等学校
発表者の声

普段高校内で発表する機会が多いが、様々な世代の人がいる状況での発表が新鮮な体験だった。また、それぞれの世代から見た課題設定からの探究が興味深かった。



一般部門
発表者の声

中高生のレベルの高い探究の発表を聞いて、探究心あふれる優秀な生徒たちが地元で働きたいと思える魅力的な会社に見えるよう精進していきたいと感じた。

様々なフィードバックから考えを深める

主催者からは、正解がないことを探究しているからこそ、発表会を通じて、多くの考え方や価値観に触れ、自身の考えを深めるきっかけにしてほしいと話があった。各発表が終わると、審査員からはその場でフィードバックが送られた。来場者は記入用紙や入力フォームを使い、それぞれの立場から感じたことをフィードバックした。それらは後日発表者の元に届けられるようになっていく。

【実際のフィードバックの例】

- ・もっとターゲットを明確にしたらどうか
- ・利用者側の視点に立ってみたいかどうか
- ・地域のお祭りで売ってみてはどうか
- ・地域住民にヒヤリングをしてみてもどうか

各賞の受賞者・発表者

【優秀賞】

- ・ 中学校部門
両小野中学校1年生グループ
「両小野地区の子どもたちの安全を考える」
- ・ 高等学校部門
東京都市大学塩尻高等学校2年生グループ
「日常で使える電動バイクの製作」
- ・ 一般部門
信州大学4年生 高橋 幸一 さん
「塩尻市をテクノロジーで盛り上げる」

【市民特別賞】

- 塩尻志学館高等学校3年生
「ロス活大作戦！」

【その他の発表者】

- ・ 塩尻西部中学校1年生グループ
- ・ 両小野中学校2年生グループ
- ・ 東京都市大学塩尻高等学校2年生グループ
- ・ (株)レゾナック・セラミックス 小松 達哉 さん

◆ お問い合わせ

共創共学プラットフォーム事務局 (NPO法人MEGURU)
塩尻市教育委員会事務局学校教育課 (0263-52-0280 内線: 3112)